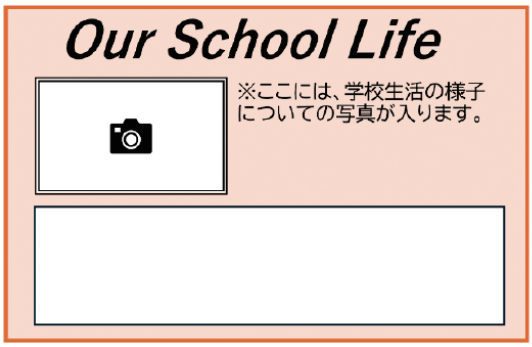
英語14　まとまりのある文章を書く

あなたは、新しく来た留学生に学校生活に慣れてもらうために、学校紹介の冊子を渡すことにしました。「学校で普段行うことを１つ取り上げ」、「それについての説明」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、下の【例】を参考にしてもかまいません。



【例】

・朝の読書活動
・授業
・給食
・清掃
・その他

<解答欄>※半角で入力してください

0 ／最大999 単語

出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「導入－本論－結論」や「主張－根拠や具体－主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことも必要である。

英語14では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを把握するために、学校で普段行うことを１つ取り上げ、それについての説明を書く問題とした。

■学習指導要領における目標

書くこと

イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

書くこと

(ｳ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
14			（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　15 語以上 30 語以内の英語で書いている。 条件②　学校で普段行うことを１つ取り上げて書いている。 条件③　条件②についての説明を書いている。		
		1	条件①、条件②、条件③を満たして解答しているもの	18.4	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②、条件③を満たして解答しているもの	10.2	○
		3	条件①、条件②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	4.7	
		4	条件①、条件③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	14.3	
		5	条件①を満たし、条件②、条件③を満たさないで解答しているもの	9.2	
		6	10 語～14 語で解答しているもの	6.3	
		7	６語～９語で解答しているもの	8.7	
		8	１語～５語で解答しているもの	12.8	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	1.6	
		0	無解答	14.0	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 282,905 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 28.5%である。学校で普段行うことを１つ取り上げ、それについての説明を書く本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型４の反応率が 14.3%、解答類型８の反応率が 12.8%、無解答の反応率が 14.0%と高い。

○　令和５年度【中学校】英語10では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみるために、学校の英語版ウェブサイトに掲載する学校紹介文を書く問題を出題し、正答率は 7.7%であった。令和５年度【中学校】英語10では、 “Our school …” や “We …” といった主語を用いて、学校を紹介する文章を書くことに課題があった。英語14においても、学校生活の様子を紹介する文章を書く問題を出題したが、引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

- In the morning, we read books from 8:10 to 8:25. When we are reading books, we mustn’t do other things. Let’s enjoy reading books.
- We study math, Japanese, and English every day. They are difficult, but they are interesting.
- We take classes every day. There are a lot of subjects such as science, math, and Japanese. Also, we sometimes take tests.
- Hello! Welcome to our school! In Japan, we have school lunch. We can enjoy our lunch with our friends. We don’t have to bring your lunch.

解答類型１に該当する生徒は、学校で普段行うこと（条件②）を１つ取り上げ、それについての説明（条件③）を書くことができている。このことから、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができていると考えられる。

○　解答類型２の例

・We usually take six classes in a day. Taking classes are hard for us. There are many fun classes. So We have fun.（動詞の活用の誤り）、（形容詞の誤り）
・In our school, we clean after the lunch, before the break time. We clean classroom _ ten minutes. （前置詞の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤り、軽微な綴りの誤り、Because から始まる従属節の単独使用など一部不正確な表現は見られるが、読み手に伝わる英語で書いている。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、条件に関する記述なし、内容の矛盾などがあるため、「条件②」または「条件③」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・I usually read a book in the morning activities. Reading books is make me relax.
・We must clean our classroom every day. I think that important clean my classroom.

解答類型３に該当する生徒は、学校で普段行うこと（条件②）を書くことはできているが、その説明（条件③）を書くことはできていない。

○　解答類型４の例

・School lunch is we can eat many kind food. It is loved by many students.
・My school is clean our classroom. It is for 15 minutes. We was clean our classroom today.

解答類型４に該当する生徒は、学校で普段行うこと（条件②）を書くことはできていないが、その説明（条件③）を書くことはできている。

○　解答類型５の例

・Do you like to read a book? Our school is read a books at every morning.
・This is study English in the classroom. English is a kind friendly. Enjoy Japan.

解答類型５に該当する生徒は、学校で普段行うこと（条件②）とその説明（条件③）を書くことができていない。

○　解答類型６の例

・We have to reading books in the morning. It was fun.
・We clean our class room every day. We must clean hard.

○　解答類型７の例

・We read books because reading books is very important.
・School lunch is very delicious because with everyone.

○　解答類型８の例

・Our school has many events.
・We clean the school.

解答類型６～８に該当する生徒は、語句または１文、２文のみで書いている。書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったと考えられる。

３．学習指導に当たって（英語 12〜英語 14）

（１）まとまりのある文章を読む活動を充実させる

まとまりのある文章を書くためには、まとまりのある文章を読み、書かれている文章の構成を理解するなど、読む活動を充実させることが大切である。例えば、全体として一貫性のある文章を読み、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落との関係など文章の構成を理解させたりすることが考えられる。

まとまりある文章を読む活動を充実させることで、英文の表現や文章の構成を参考に書いたり、自分が書いた文章と比較しながら推敲したりすることにつながる。どのように表現したらよいか分からない生徒には、読んだ文章から参考になりそうな表現を選んで書くなど、書くことに慣れさせていくことも考えられる。

（２）テーマについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理させる

事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題が見られる。英語12では、14語以下で解答している解答類型６～８の反応率の合計が24.7％（英語13では32.6％、英語14では27.8％）となっており、書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く表現が思い浮かばなかった可能性が考えられる。ある話題について書く内容が思い浮かぶようにするための支援として、書く前に話題に関連する内容をキーワードでメモに整理させることが考えられる。

例えば、英語12の中学生になってからの思い出を１つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く問題では、修学旅行について書く場合には、関連する内容として、修学旅行で訪れた場所、体験した内容、見たこと、食べたもの、それらについて感じたことや考えたことを書き出す。その上で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて書く順番などの構成を整理することが考えられる。このような整理されたメモをペアやグループで互いに参照することで、自分では気付かなかった視点や考え方に気付かせ、メモを再構成させることも考えられる。

整理したメモを基に、すぐにテーマについて書かせてもよいが、それでも書くことに難しさを感じる生徒もいることが予想される。そのような場合には、書く前に、テーマについてメモを基にペアでやり取りを繰り返し、友達の考えや表現を参考に自分の考えを書かせるなど、「話すこと」と「書くこと」の領域を統合した指導を行うことも考えられる。

（３）文と文のつながりなどに注意しながら文章を書かせる

「まとまりのある内容を書く」とは、文と文との順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、“because” “and” “so” “but” などの接続詞を用いて複文や重文にしたり、 “he” “she” “it” “they” などの代名詞を用いて文と文のつながりを意識させたりして、３文程度の短い文章を書くことを繰り返し行うことが大切である。

例えば、英語14のように、学校で普段行うことを１つ取り上げ、それについての説明を書く場合には、“We have school lunch. We eat it in our classroom. Our school lunch is very good. Everyone likes our school lunch.”と、“it” を用いて、前の文とのつながりをもたせたり、給食はどこで食べるのか、味はどうかなど、一貫性のある文章で書かせたりすることが考えられる。

英語13において、留学生との交流会で一緒にしたいこととその理由を書く問題では、 “I want to play *karuta* with Tom. Because the rules are easy.” など、話し言葉では使用されるが、書き言葉としては使用されないBecauseから始まる従属節の単独使用が多く見られた。このように解答した生徒には従属節を含む複文を的確に捉えさせ、“I want to play *karuta* with Tom because the rules are easy.” など、自分の考えとその理由を書くことができるようにすることが大切である。「書くこと」を繰り返す中で、読み手に伝わる表現で書くことができるように指導することを併せて行うことが大切である。

（４）言語活動の例

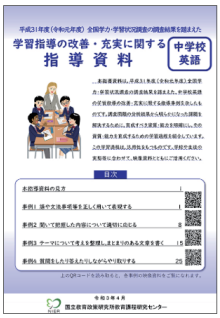
・友達に自分の新たな一面を知ってもらうために、自己紹介を書く活動
・学校の英語版ウェブサイトに学校紹介文を掲載するために、学校生活の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を書く活動
・外国人観光客にも分かりやすいタウン・ガイドの作成に向けて、「学校」を表す２つのピクトグラムのうち、どちらがよいかウェブサイトに投稿するために、自分の考えとその理由を書く活動
・地域の紹介、おすすめのもの、おすすめの場所、日本の文化などについて書く活動

〇関連する指導資料　※画像をクリックするとリンク先にアクセスできます。

・中学校英語指導事例集（令和３年４月）
「テーマについて考えを整理し、まとまりのある文章を書く」

映像資料

指導資料



コラム③

【コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに重点を置いた授業づくりと生徒の振り返り】

中学校学習指導要領解説外国語編は「外国語教育における学習過程」を、①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、というプロセスとして示しています。外国語によるコミュニケーションでは、「誰に」「何のために」伝えるのか、また「誰からの情報を」「何のために」理解するのかという、相手意識に基づいた目的や場面、状況の理解が不可欠です。そして、この理解はコミュニケーションの見通しを立てることによって具体化されます。例えば、何を伝えるか、どのような表現を用いて伝えるか、どのような順序で伝えるかなどを考えることで、学習者は自らの言語使用のイメージを作り上げていきます。その後、実際のコミュニケーションを行い、自らのコミュニケーションを振り返るという一連の流れは、学習過程を漸進的に展開させる働きをもつとともに、次の新たな学習過程へとつながる循環を生み出します。

ここで重要なのは、「振り返り」がこのすべての段階に関わっている点です。そして、その役割は大きく２つに分けることができます。１つは総括的な自己評価です。ある程度の内容を学習した後に分かったこと、できたことなどを書きまとめることで、それまでに学んだことを自分の言葉で整理する活動です。例えば、「どのような工夫をして相手にどの程度伝わったか」「どの部分がうまくいかなかったか（それはなぜか）」といった観点から自分のパフォーマンスを評価することで、コミュニケーションの目的をどの程度達成できたかを意識化します。学習者にとってこの総括的な自己評価は、一連の学習過程の節目や終了時において、自分の成長や課題を実感する機会となります。

もう１つは形成的な自己評価です。これは、次の行動をよりよくするための見直しであり、実際のコミュニケーションを行う事前、事中、事後のすべての段階において機能します。事前であれば、これまでの学習経験を踏まえて目標や方法を定めるという形で現れます。例えば、「分かりやすくするために今回は具体例を入れたい」といった記述が挙げられます。事中では、「簡単な英語で言い換えて話せるようにもっと練習したい」といった直近の改善案を示す記述が考えられます。さらに事後では、「次に同じような活動をするときは相手からの質問を予想して話す内容を準備しておきたい」など、将来のコミュニケーションへの見通しとして現れます。このような形成的な自己評価は、その後に続く学習のあり方を捉え直す契機となり、学びの質を高めます。

これら２つの振り返りが相互に関連しながら機能することで、単元の学習が単なる直線的なプロセスではなく、改善を伴う発展的なプロセスとなります。さらに、この発展的な学習過程は、学習者の意欲にも大きな影響を与えます。折に触れて「今の自分の学習状況」「自分に必要な次の学習」について意識化を促すことで、学習者にとって学習が自分事となり、前向きに取り組みやすくなります。自らの調整によってコミュニケーションを改善できた経験は、「工夫すればうまくいく」という感覚を着実に育てます。また、振り返りを学級で共有し、多様な視点や方略に触れる機会を設けることは、安心して学び合える学習者集団の形成にも有効でしょう。

日々の学びに主体的に向き合う力がこれまで以上に重視される時代、そして AI 技術が発展し続ける時代にあって、英語教師には、生徒が自らの学習過程を無理なく自分事として受け止められるような指導が求められます。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに重点を置いた授業づくりと生徒の振り返りを有機的に結びつけることは、生徒一人一人の生涯にわたる学びの基盤を形成する上で重要であると言えます。